時事通信社発行「地方行政」より転載　前編　9月7日[木]号

雑誌掲載ー町の取り組みー

新たな発想で政策を進める境町のプロモーション

境町が展開する人口増加・財政再建・ひとの創生の取り組み

牧瀬　稔
関東学院大学
法学部地域創生学科准教授
境町秘書公室秘書広聴課

今回と次回は、境町秘書公室秘書広聴課（茨城県境町）と筆者（牧瀬）の共著で進める（本稿の責任は牧瀬にある）。事例として境町のシティプロモーションの取り組みを紹介する。今回は境町が進めるプロモーションの前提にある、人口増加・財政再建・ひとの創生の観点から言及する。

1. 境町の概要

境町は利根川と江戸川の分岐点に位置する。江戸時代には水運を生かした利根川随一の河岸の町として、人や文物の行き交う文化交流の場として繁栄した。２０１５年に圏央道境古河インターチェンジが開通し、２０１７年２月には圏央道が茨城県内で全線開通したことにより、都心だけでなく成田空港へも1時間とアクセスの便が向上し、さらなる発展の契機を迎えた。

境町は、人口増加・財政再建・ひとの創生を三つの主な取り組みとして、さまざまな施策を行っている。今回は、それらの取り組みについて現状や課題、対応を記していく。

2. 人口増加の取り組み

境町の人口は、年少人口（0～14歳）に着目すると、１９８１年の６６３５人に比べ、２０１５年には３２０２人となり、半分以下となった。出生数に注目すると、１９７５年生まれの児童は４８０人であったが、２０１４年には１７８人に大幅に減少している（**図表1**）。

年少人口の減少への対策について、境町では奈義町（岡山県）の取り組みに注目した。奈義町では、２０１２年に「奈義町子育て応援宣言」を掲げ、２０１４年には合計特殊出生率が前年の1・88から2・81へと急上昇している。２０１７年1月末現在において、同町の総人口は６１６６人となっている。合計特殊出生率の計算上、母数が小さい点については数値を参照する上で留意すべきであるが、出生率が上昇した要因には、出産祝い金の交付をはじめ、乳幼児や児童生徒に対する医療費用助成等の手厚い子育て支援施策の効果が表れたものであると考えられる。

同様に、子育て世帯をターゲットに絞った施策で人口増加が見られた自治体としては、流山市（千葉県）の事例がある。流山市は、２００８年4月にシティセールス室を設置し、２０１１年6月にシティセールスプランを策定している。同プランは、共稼ぎ子育て世帯をターゲットに絞り、「母になるなら流山市。」のキャッチコピーによる駅広告の掲出など積極的なプロモーション活動や「駅前送迎保育ステーション」など、働く子育て世帯を対象に特化した施策を展開してきた。その結果、２００５年と比較して人口が3万人以上も増え、人口のボリュームゾーンは「60～64歳」から、ターゲットに設定した「35～39歳」にシフトしている。

なお駅前送迎保育ステーションとは、駅前（駅近）に設置した送迎保育ステーションと流山市内の指定保育所（園）をバスで結び、登園・降園することができるシステムである。２００７年7月に、つくばエクスプレス・東武野田線の流山おおたかの森駅前に「おおたかの森送迎保育ステーション」を設置し、２００８年7月には、つくばエクスプレス・ＪＲ南流山駅前に「南流山送迎保育ステーション」がオープンした。

奈義町と流山市から得られる知見は、ターゲットを絞り込み、適切な施策を堅実に行うことが、人口減少に歯止めをかける効果をもたらすという事実である。2自治体の事例を参考に、境町でも２０１４年度より子育て世帯へ向けてさまざまな支援事業を展開している（**図表2**）。

これらの取り組みが良い結果をもたらし、２０１６年度の人口の社会動態を確認すると、転入・転出者の差がプラスに転じている。人口の社会動態がプラスに転じたのは、２００３年度以来13年ぶりとなった（**図表3**）。なお、２００３年度のプラスは、旭化成建材株式会社松戸工場の境工場への全面統合移転に伴うものである。

境町はターゲットを絞り込み、適切な施策を堅実に行うことが、実に行うことにより、「選ばれる境町」に変貌しつつある。人口の社会動態が増えている要因は、ターゲットとしている子育て世帯の支援による移住・定住の効果を発揮したことと推測される。

２０１７年1月から日野自動車株式会社古河工場全面稼働が開始し、同社の社員の転入がピークを迎えようとしている。

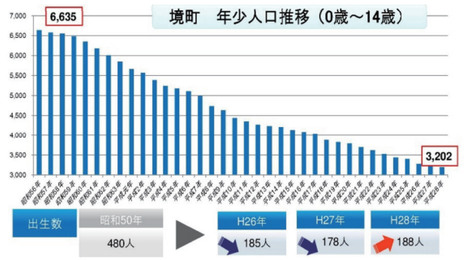
3. 財政改善の取り組み

境町の２０１４年の実質公債比率は16・1％であり、将来負担比率は１７１・５％と北関東ワースト1位の数値となっている。町の負債は過去45年以上にわたり増え続けていた。このような状況では、境町の未来が感じられなくなってしまう。

境町では、水道事業の見直しによる黒字化や、業務用パソコンや公用車など購入コストの削減を行ってきた。そして、昨今では財政改善を図るため、さらに三つの取り組みを行っている。

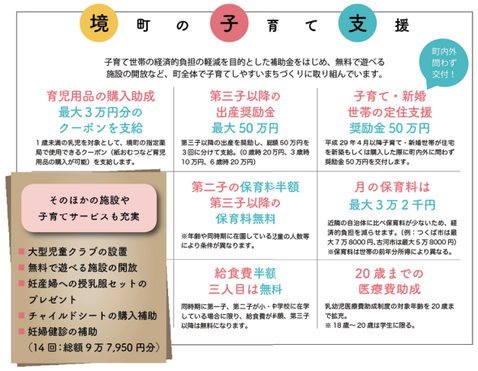
第一に、太陽光発電事業である。同町では２０１４年に「茨城さかいソーラー株式会社」を設立した。同社は境町が１００％出資している。この取り組みは、新たな財源確保という位置付けである。設備投資は、ドラッグストアチェーンの「ウエルシア薬局」の創業家である鈴木孝之氏の遺族から寄贈された５０００万円を充てている（鈴木

図表1　境町の年少人口の推移



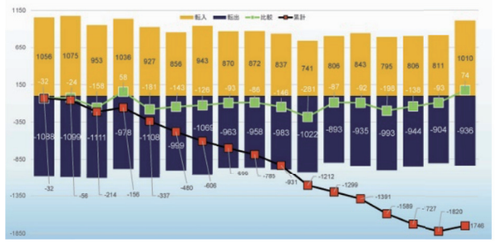
出典：境町

図表2　境町の子育て世帯へ向けたさまざまな支援事業



図表3　境町における人口の社会動態

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
転入	1056	1075	953	1036	927	856	943	870	872	837	741	806	843	795	806	811	1010
転出	1088	1099	1111	978	1108	999	1069	963	958	983	1022	893	935	993	944	904	936
比較	-32	-24	-158	58	-181	-143	-126	-93	-86	-146	-281	-87	-92	-198	-138	-93	74
累計	-32	-56	-214	-156	-337	-480	-606	-699	-785	-931	-1212	-1299	-1391	-1589	-1727	-1820	-1746



出典：境町

写真1　道の駅さかいに併設するレストラン（イメージ）